

ムイヌカー由来

屋良 朝助 (1907・M40) 字瀬名波 (00 : 55)

くぬ瀬名波ぬウグワンぬ後んかい、ムイヌカーでいぬカーぬ在しが、うぬ名あ付きたしえー、ちゃーし付きたがりでー。

昔 や、今ぬぐととし機関船とうか何とうか無らんよーくー、帆船し、くぬ沖繩や離島やぐととう、旅渡たい、旅渡たいし。やしが、海とーてい災難に遭たていやー。あんし、船割てい流りてい来つ、着ちやんとくる所 が、ムイヌカーぬ下 ってい着ちよー。

其処んかい来つ、其処から 泉、水え湧ちやぐととう、うぬ水飲らーに 息え返てい、命助かてい付きたしが、ムイヌカーでいちよーしが。あんしくれー、本当でいねー、物思たるウムイヌカー。

【共通語訳】

瀬名波のウガンの後方に、ムイヌカーという湧泉があるが、なぜその名が付いたかというね。

昔は、今のように機関船などはないから、離島である沖繩は帆船で島々を行き来していた。そんな時、船が遭難して流れ着いた所が、ムイヌカーの下の方だった。

流れ着いた所には泉があつて、水が湧いていたので、その水を飲んで息を吹き返し、命が助かったということでムイヌカーと付けたそうなんだ。水を飲んで人心地ついたという意味で、本来なら物を思ったウムイヌカー（思いの湧泉）ということさ。